

2019年度 第3四半期決算

投資家様向け説明資料



2020年1月29日
オムロン株式会社

発表のポイント

■ 3Q累計実績

- ・ 前年から減収減益。為替影響を除いて売上高は概ね10月の社内見通しどおり。
- ・ 営業利益は、売上総利益率の向上等もあり、見通しを上回って着地。
- ・ 社会システム事業は大幅増収。鉄道、交通を中心に堅調に推移。

■ 通期見通し

- ・ 事業環境に回復の兆しはあるが、通期見通しは据え置く。
- ・ 計画した成長投資は完遂させた上で、通期見通しを達成させる。

■ 今後を見据えて

- ・ 3つの注カドメインにフォーカスし、さらなる成長を目指す。
- ・ FAとヘルスケアの成長に向けた打ち手は着実に実行している。
- ・ CFOとしてROIC経営の徹底にこだわる。

目次

1. 3Q累計実績	P. 3
------------------	------

2. 通期見通し	P. 8
-----------------	------

3. 今後を見据えて	P. 13
-------------------	-------

- 参考資料 -	P. 21
-----------------	-------



3Q累計実績

3Q累計実績

前年から減収減益。売上総利益率は向上。

(億円)

	2018年度 3Q累計実績	2019年度 3Q累計実績	前年同期比
売上高	5,392	4,983	△7.6%
売上総利益 (売上総利益率)	2,424 (44.9%)	2,252 (45.2%)	△7.1% (+0.2P)
営業利益 (営業利益率)	496 (9.2%)	401 (8.0%)	△19.1% (△1.1P)
継続事業純利益	342	330	△3.5%
非継続事業純利益	52	384	(-)
* 当社株主に帰属する 当期純利益	388	710	+83.2%
米ドル 平均レート (円)	110.8	109.1	△1.7
ユーロ 平均レート (円)	129.6	121.3	△8.3
人民元 平均レート (円)	16.6	15.7	△0.9

* 当社株主に帰属する当期純利益には、非支配持分帰属損益を含む

セグメント別 売上高

**制御機器事業、電子部品事業、ヘルスケア事業は減収。
社会システム事業は増収。**

(億円)

	2018年度 3Q累計実績	2019年度 3Q累計実績	前年同期比
制御機器事業 (IAB)	2,985	2,654	△11.1%
電子部品事業 (EMC)	788	673	△14.6%
社会システム事業 (SSB)	399	493	+23.7%
ヘルスケア事業 (HCB)	867	853	△1.6%
本社直轄事業 (その他事業)	310	288	△7.3%
本社他 (消去調整含む)	42	22	△47.6%
合計	5,392	4,983	△7.6%

セグメント別 営業利益

**制御機器事業と電子部品事業は減益。
社会システム事業と本社直轄の環境事業は増益。**

(億円、%：営業利益率)

	2018年度 3Q累計実績	2019年度 3Q累計実績	前年同期差
制御機器事業 (IAB)	489 (16.4%)	407 (15.3%)	△83 (△1.1P)
電子部品事業 (EMC)	70 (8.9%)	9 (1.4%)	△61 (△7.6P)
社会システム事業 (SSB)	△14 (-)	17 (3.4%)	+30 (-)
ヘルスケア事業 (HCB)	112 (13.0%)	112 (13.2%)	+0 (+0.2P)
本社直轄事業 (その他事業)	△5 (-)	15 (5.0%)	+20 (-)
本社他 (消去調整含む)	△157	△158	△1
合計	496 (9.2%)	401 (8.0%)	△95 (△1.1P)

連結貸借対照表

在庫は適正な水準でコントロール。

(億円)

	2019年3月末	2019年12月末	前年度末差
流動資産	4,600	4,852	+252
(たな卸資産)	(1,204)	(1,255)	(+51)
有形固定資産	1,151	1,151	+1
投資その他の資産	1,748	1,999	+251
資産の部合計	7,499	8,003	+504
流動負債	1,756	1,650	△105
固定負債	680	621	△59
負債の部合計	2,436	2,272	△164
株主資本	5,042	5,708	+666
非支配持分	21	23	+2
純資産の部合計	5,063	5,731	+668
負債及び純資産合計	7,499	8,003	+504
株主資本比率	67.2%	71.3%	+4.1P



通期見通し



4Q見通し(1-3月) 事業セグメント別 事業環境認識 (2Q見通しからの変化)

**制御機器事業は、デジタル業界が緩やかに回復。
電子部品事業は、厳しい事業環境が継続。**

制御機器事業 (IAB)	<p>自動車： ガソリン車の販売台数減少に伴い、関連する設備投資抑制の動きが更に拡大。 デジタル： 中国・韓国を中心に半導体関連投資は緩やかに回復。 食品・日用品： 欧州の機械出荷は低調継続。アジアの省人化投資は堅調継続。 社会インフラ： 政府の景気刺激策により、中国では都市開発や公共インフラ投資が堅調継続。</p>
電子部品事業 (EMC)	<p>民生： 中国は国内市場の需要低調が継続。欧米も回復の兆しが見えず、需要減速を見込む。 車載： 自動車販売台数の減少、中国EV市場の補助金減額により米州・中華圏が減速。</p>
社会システム事業 (SSB)	<p>鉄道： 設備更新サイクルは堅調であり、需要継続を見込む。 交通： 堅調な更新需要の継続を見込む。 決済： キャッシュレス決済ニーズの高まりから、堅調な決済端末需要の継続を見込む。</p>
ヘルスケア事業 (HCB)	<p>国内： 消費増税や暖冬の影響により減速。 海外： 米州は低調継続。中国はネット販売が好調を維持しているものの市場全体では成長減速。</p>
本社直轄事業 (その他事業)	<p>環境： パワコンの需要は横ばい。蓄電システムは引き続き拡大。</p>

通期見通し

通期見通しを据え置く。

(億円)

	2018年度 実績	2019年度 見通し	前年度比・差
売上高	7,326	6,700	△8.5%
売上総利益 (売上総利益率)	3,255 (44.4%)	2,980 (44.5%)	△8.4% (+0.1P)
営業利益 (営業利益率)	673 (9.2%)	450 (6.7%)	△33.1% (△2.5P)
継続事業当期純利益	473	300	△36.6%
非継続事業当期純利益	77	365	(-)
* 当社株主に帰属する 当期純利益	543	660	+21.5%
米ドル 平均レート (円)	110.7	108.0	△2.7
ユーロ 平均レート (円)	128.8	120.3	△8.5
人民元 平均レート (円)	16.5	15.5	△1.1

* 当社株主に帰属する当期純利益には、非支配持分帰属損益を含む

※下期における為替レート的前提は、米ドル105円、ユーロ117円、人民元14.7円

(参考) セグメント別 売上高

(億円)

	2018年度 実績	2019年度 見通し	前年同期比
制御機器事業 (I A B)	3,918	3,430	△12.5%
電子部品事業 (E M C)	1,031	900	△12.7%
社会システム事業 (S S B)	750	840	+12.0%
ヘルスケア事業 (H C B)	1,155	1,170	+1.3%
本社直轄事業 (その他事業)	417	340	△18.5%
本社他 (消去調整含む)	54	20	△62.8%
合計	7,326	6,700	△8.5%

(参考) セグメント別 営業利益

(億円、% : 営業利益率)

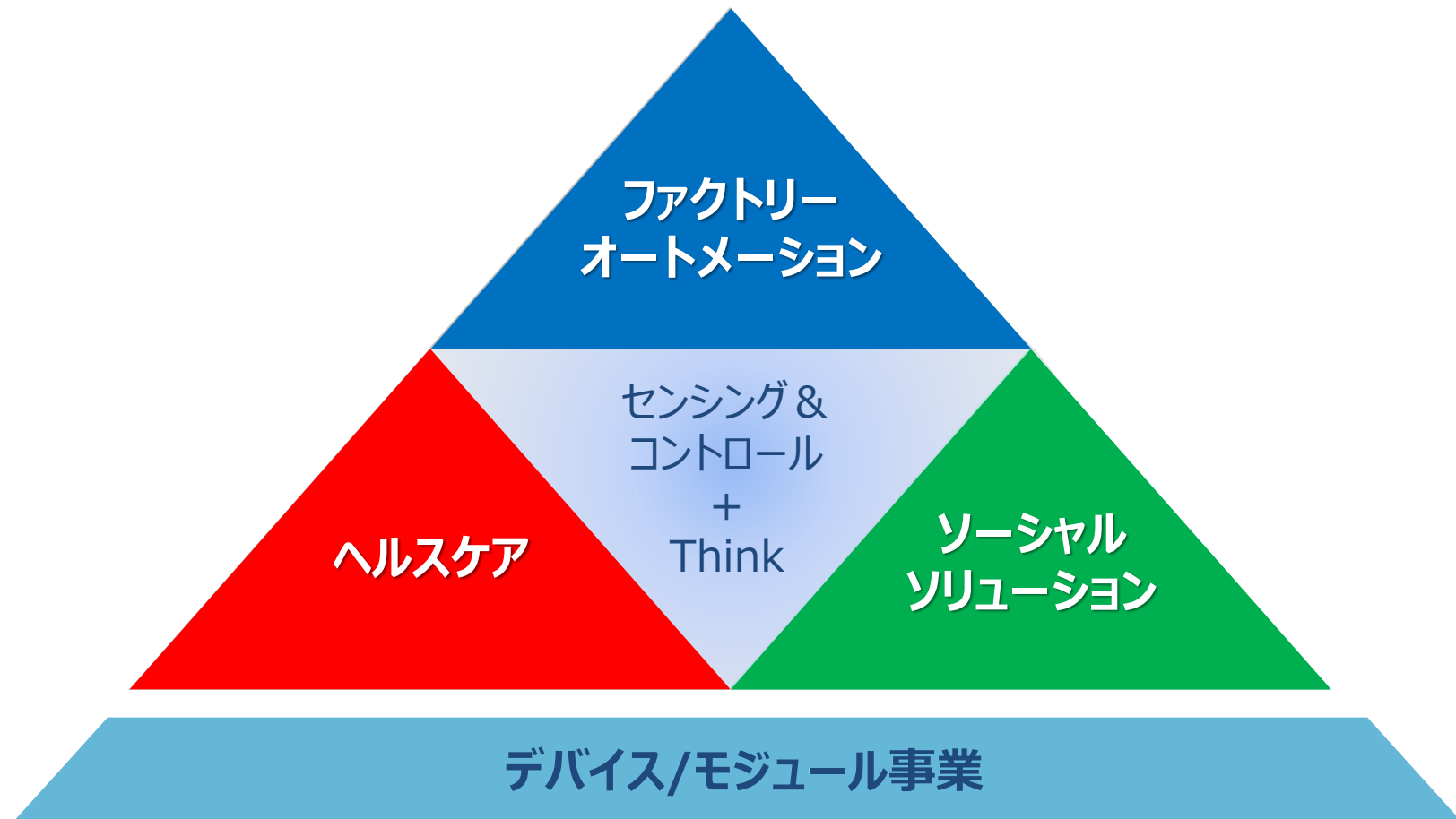
	2018年度 実績	2019年度 見通し	前年同期差
制御機器事業 (I A B)	629 (16.1%)	480 (14.0%)	△149 (△2.1P)
電子部品事業 (E M C)	82 (7.9%)	20 (2.2%)	△62 (△5.7P)
社会システム事業 (S S B)	58 (7.7%)	75 (8.9%)	+17 (+1.2P)
ヘルスケア事業 (H C B)	130 (11.3%)	135 (11.5%)	+5 (+0.3P)
本社直轄事業 (その他事業)	△ 5 (-)	0 (-)	+5 (-)
本社他 (消去調整含む)	△ 221	△ 260	△39
合計	673 (9.2%)	450 (6.7%)	△223 (△2.5P)



今後を見据えて

3つの注力ドメイン

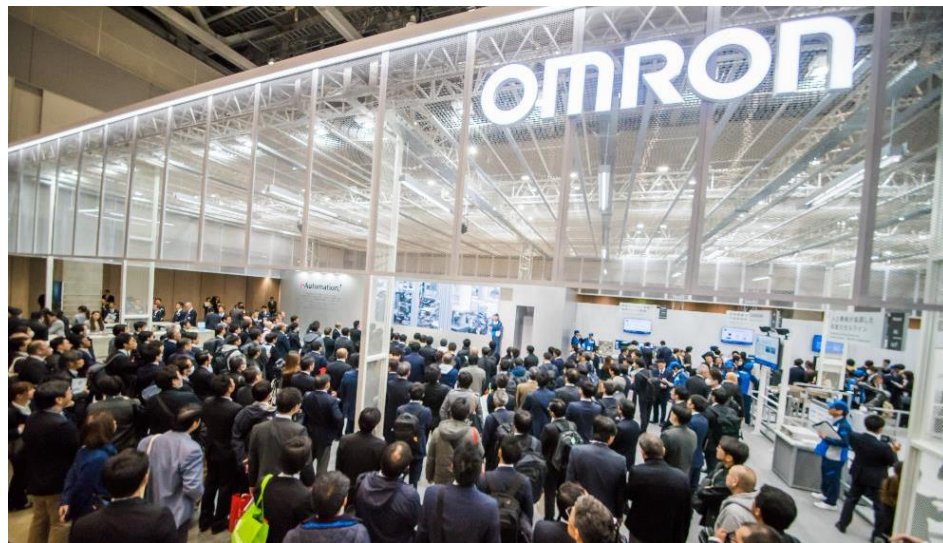
競争力がありシェアが高い3ドメインに注力。



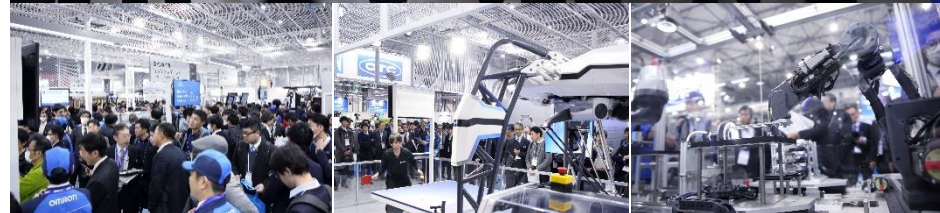
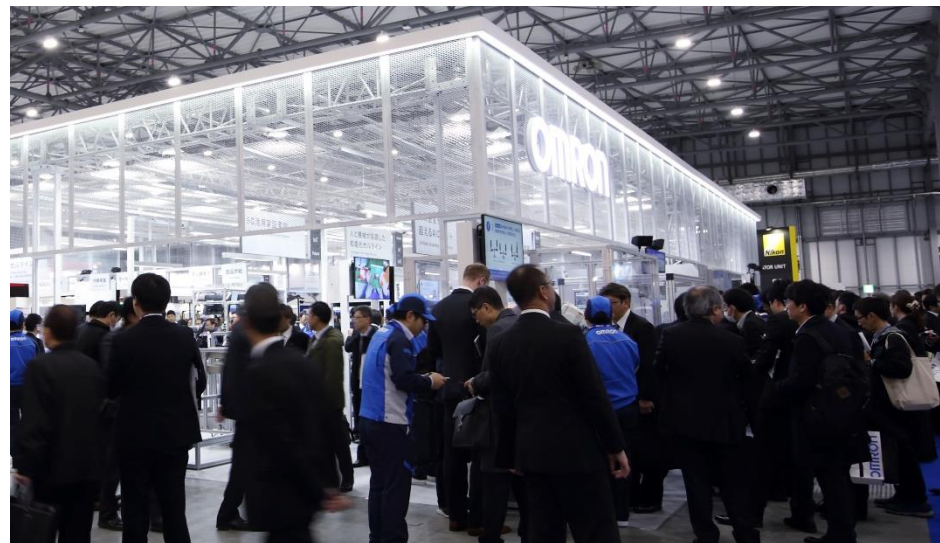
制御機器事業（IAB） IIFES/国際ロボット展

全国から顧客が集結する国内最大級の展示会 IIFES/国際ロボット展において、革新アプリケーションにフォーカスしたソリューション展示を実行。

IIFES2019

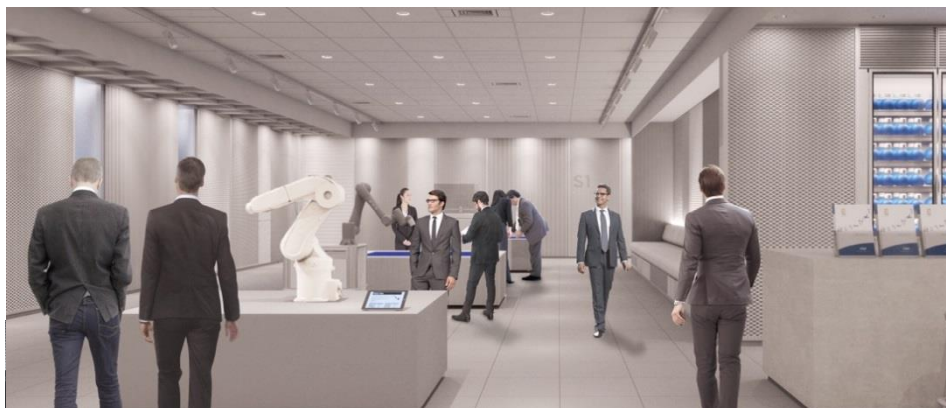


2019国際ロボット展



制御機器事業（IAB）オートメーションセンタ(ATC)

顧客との共創拠点であるオートメーションセンタをグローバルに拡大。
1月22日に東京・品川に世界最大の「ATC-TOKYO」をグランドオープン。



モノづくり革新ソリューションの体験



テスト装置による共同検証



アプリケーション・ソフトの開発



導入サポートの実践トレーニング

ヘルスケア事業（HCB）ゼロイベント実現に向けた進捗

ゼロイベント実現に向けて革新的なデバイスを続々とリリース。
ウェアラブル血圧計が米TIME誌の「2019年の発明品ベスト100」に選定。



世界初

北米 FDA許認可取得
日本 薬事承認取得

ヘルスケア事業（HCB）ゼロイベント実現に向けた進捗

心電と血圧の同時計測を実現する世界初の血圧計を発売。

世界初 北米 FDA許認可取得



CFOとしてこだわりを持って推進していくこと

ROIC経営の徹底

売上総利益率の向上

成長投資の実行

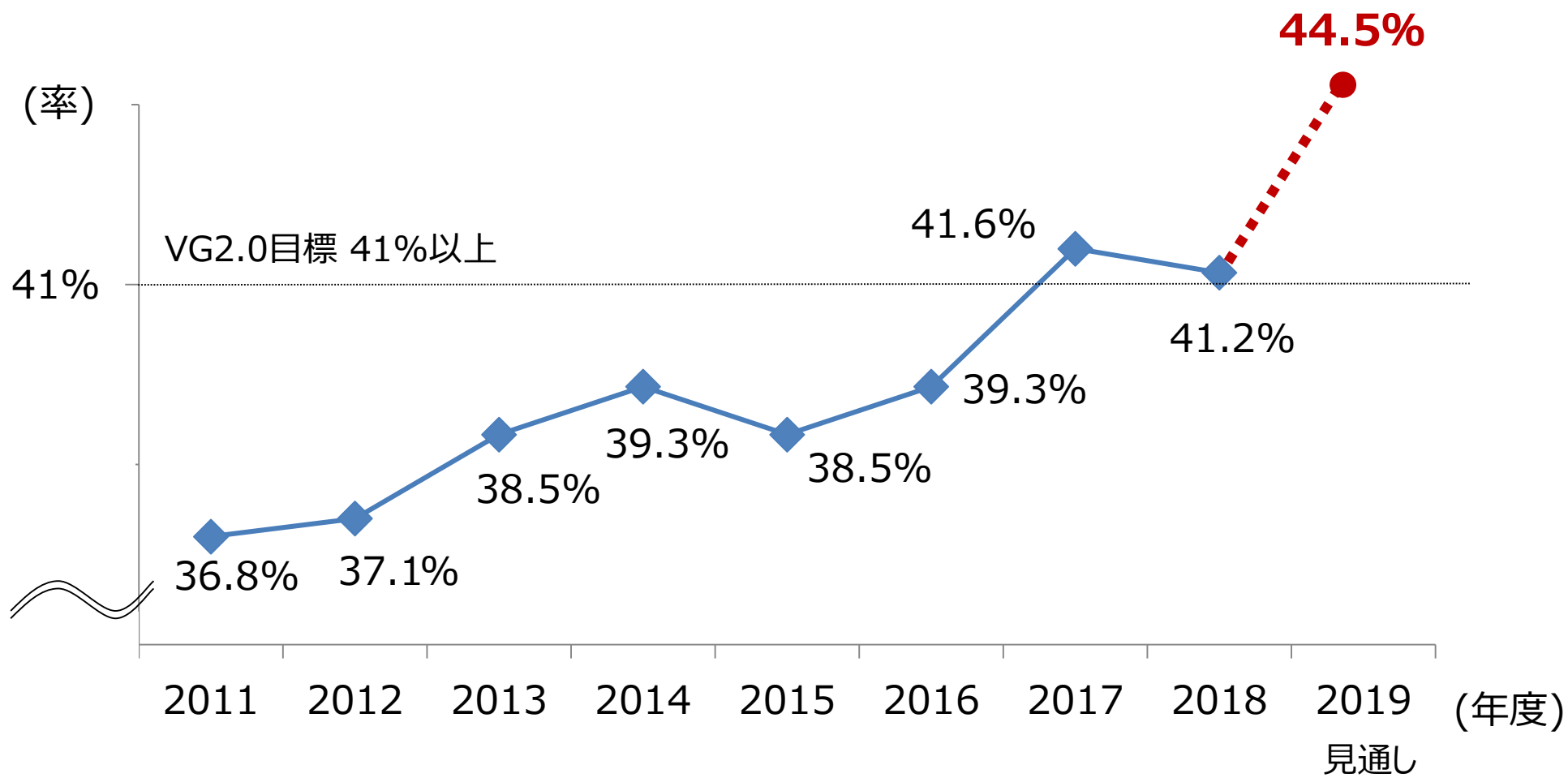
収益構造改革

OMRON

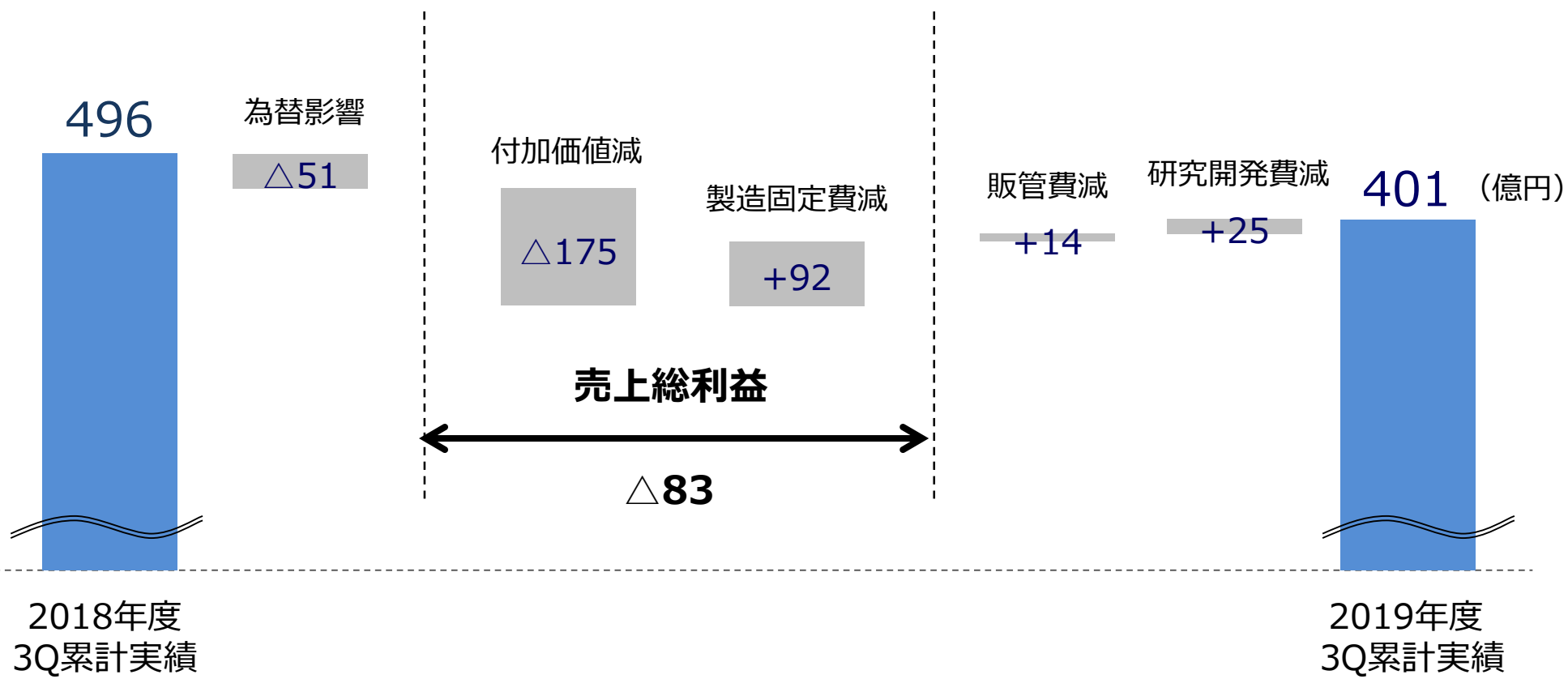


參考資料

売上総利益率の推移



3Q累計実績 営業利益増減（前年同期差）



3Q実績 (10-12月)

(億円)

	2018年度 3Q実績	2019年度 3Q実績	前年同期比
売上高	1,862	1,681	△9.7%
売上総利益 (売上総利益率)	834 (44.8%)	764 (45.4%)	△8.4% (+0.6P)
営業利益 (営業利益率)	177 (9.5%)	144 (8.5%)	△18.9% (△1.0P)
継続事業純利益	107	103	△3.3%
非継続事業純利益	19	418	(-)
* 当社株主に帰属する 当期純利益	123	519	(-)
米ドル 平均レート (円)	113.4	108.8	△4.6
ユーロ 平均レート (円)	129.9	120.0	△9.9
人民元 平均レート (円)	16.4	15.4	△1.0

* 当社株主に帰属する当期純利益には、非支配持分帰属損益を含む

3Q実績 (10-12月) セグメント別 売上高

(億円)

	2018年度 3Q実績	2019年度 3Q実績	前年同期比
制御機器事業 (IAB)	971	875	△9.8%
電子部品事業 (EMC)	259	214	△17.3%
社会システム事業 (SSB)	162	180	+10.9%
ヘルスケア事業 (HCB)	312	307	△1.6%
本社直轄事業 (その他事業)	141	98	△30.5%
本社他 (消去調整含む)	17	7	△61.5%
合計	1,862	1,681	△9.7%

3Q実績 (10-12月) セグメント別 営業利益

(億円、% : 営業利益率)

	2018年度 3Q実績	2019年度 3Q実績	前年同期差
制御機器事業 (I A B)	156 (16.0%)	131 (14.9%)	△25 (△1.1P)
電子部品事業 (E M C)	25 (9.6%)	2 (1.1%)	△22 (△8.4P)
社会システム事業 (S S B)	8 (4.8%)	12 (6.8%)	+4 (+2.0P)
ヘルスケア事業 (H C B)	41 (13.0%)	44 (14.2%)	+3 (+1.2P)
本社直轄事業 (その他事業)	11 (7.5%)	5 (4.7%)	△6 (△2.7P)
本社他 (消去調整含む)	△ 62	△ 50	+12
合計	177 (9.5%)	144 (8.5%)	△34 (△1.0P)

2019年度 下期為替前提

	2019年度 下期為替前提	1円変動による影響額（通期） *人民元は0.1円変動の影響額	
		売上高	営業利益
米ドル	105円	約17億円	約3億円
ユーロ	117円	約10億円	約5億円
人民元	14.7円	約7億円	約0.5億円

※ 新興国通貨等が、主要通貨に想定通り連動しなかった場合、感応度に影響を与えます。

「VG2.0」とサステナビリティ戦略の関係

企業理念

中期経営計画 VG2.0

業績目標・事業戦略

サステナビリティ重要課題

質量兼備の地球価値創造企業



主要ESGインデックスへの組み入れ (2020年1月現在)

<オムロンが選定されているESGインデックス >

- ✓ DJSI – World
- ✓ FTSE4Good Index Series
- ✓ MSCI ESG Leaders Indexes
- ✓ MSCI SRI Indexes
- ✓ STOXX Global ESG Leaders indices
- ✓ FTSE Blossom Japan Index
- ✓ MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数
- ✓ MSCI 日本株 女性活躍指数
- ✓ S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数

*オムロンでは、CDP気候変動・水に関する調査を含むESG評価機関による調査など、多くの外部からの調査に協力し、情報を開示しています。

MEMBER OF
**Dow Jones
Sustainability Indices**
In collaboration with  **SAM**
a RobecoSAM brand



FTSE4Good

MSCI 

2019 Constituent
MSCI ESG
Leaders Indexes

Member 2018/2019
STOXX
ESG LEADERS INDICES



FTSE Blossom
Japan

MSCI 

MSCI Japan ESG
Select Leaders Index

MSCI 

MSCI Japan Empowering
Women Index (WIN)

**S&P/JPX
Carbon
Efficient
Index**


DRIVING SUSTAINABLE ECONOMIES

社外からの評価 (2020年1月現在)

<国内におけるESG関連表彰・銘柄選定>

一般社団法人 日本取締役協会 主催

- ✓ コーポレート・ガバナンス・オブ・ザ・イヤー2018 経済産業大臣賞 **2018年度受賞**



環境省 主催

- ✓ 平成30年度 地球温暖化防止活動大臣表彰
「対策活動実践・普及部門」を受賞

2018年度受賞



日本経済新聞社 主催

- ✓ 日経SDGs経営大賞 「SDGs戦略・経済価値賞」を受賞

2019年12月受賞



経済産業省・東京証券取引所 選定

- ✓ なでしこ銘柄
- ✓ 健康経営銘柄2019
- ✓ 健康経営優良法人～ホワイト500～

2017年度より2年連続選定

2018年度 初選定

2016年度より3年連続選定



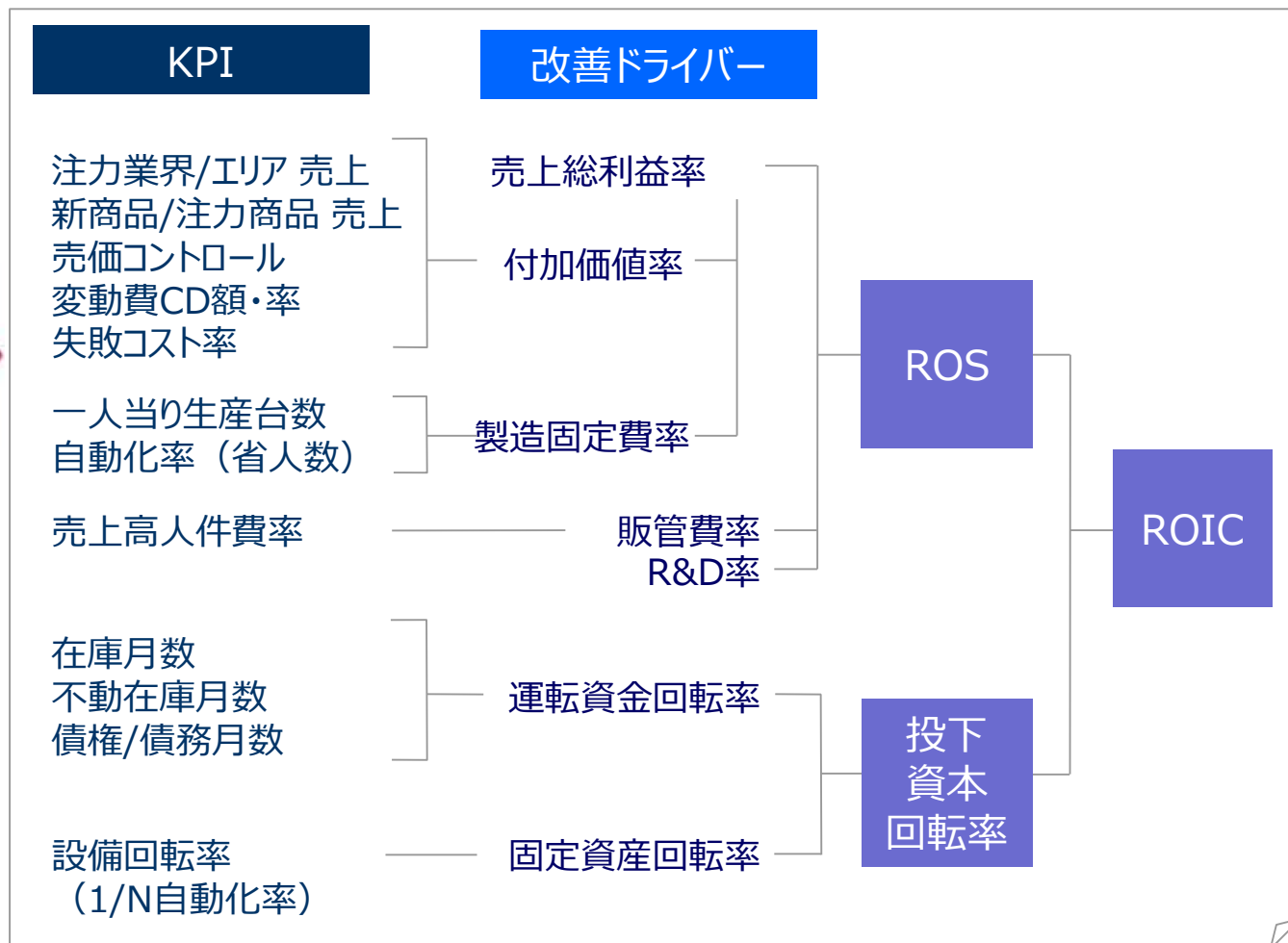
日本経済新聞社 選定

- ✓ 日経225

2019年3月 初選定

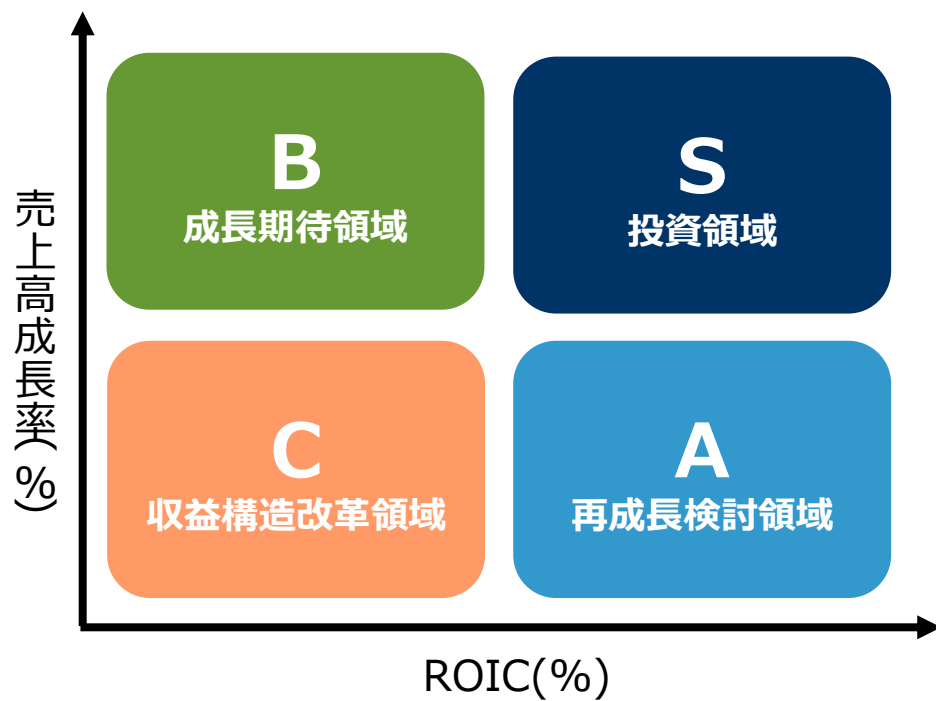


ROIC逆ツリー展開

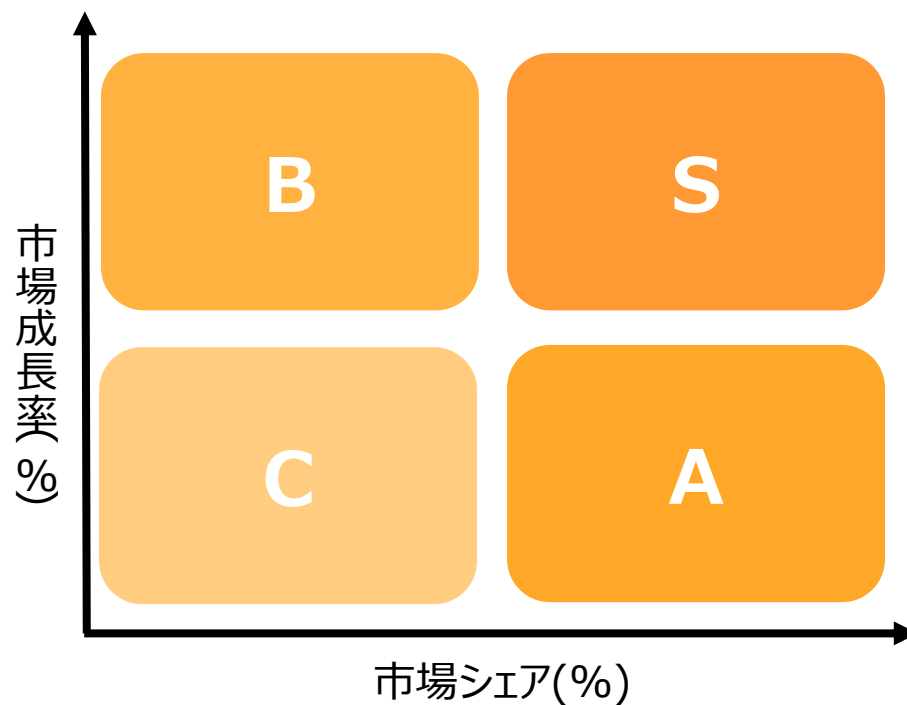


事業ポートフォリオマネジメント

経済価値評価



市場価値評価



ROIC計算式

<連結貸借対照表>

科目	年 月 末
資産の部	
流動資産	
…	
…	
有形固定資産	
…	
投資その他の資産	
…	
負債の部	
流動負債	
短期債務	
…	
…	
…	
純資産の部	
株主資本	
…	
…	
…	
純資産の部合計	
負債及び純資産合計	

当社株主に帰属する
当期純利益

ROIC =

投下資本

投下資本 = 純資産 + 有利子負債

※投下資本は、前年度末実績および当年度の各四半期毎の実績または見通しを平均して算出。

2017～2020年度における想定資本コスト：6%

<注意事項>

1. 当社の連結決算は米国会計基準を採用しています。
2. 業績予想などは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまなリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。
3. 当資料は「2020年3月期 第3四半期 決算短信」に準拠し作成しています。
差額、比率については百万円単位で計算し、四捨五入しています。

< I R に関するお問い合わせ >

オムロン株式会社

グローバルインベスター & ブランドコミュニケーション本部 IR部

電話 : 03-6718-3421

E-mail : omron-ir@omron.com

Webサイト : www.omron.co.jp